

令和元年度 第4回
島田市中小企業・小規模企業
振興推進会議

令和2年2月10日

議事要録

令和元年度 第4回島田市中小企業・小規模企業振興推進会議

議事要録

会議体の名称	令和元年度 第4回島田市中小企業・小規模企業振興推進会議	
事務局（担当課）	島田市産業観光部 商工課	
開催日時	令和2年2月10日（月） 10：30～12：00	
開催場所	島田市役所 4階 第3委員会室南	
議題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 島田市中小企業・小規模企業実態調査の報告について ・ 令和2年度の推進会議について 	
出席者	委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 島田商工会議所 北川専務理事 ・ 中小企業家同友会志太支部 戸塚条例推進会議 島田担当 ・ 有限会社落合製材所 落合代表取締役 ・ 株式会社静岡銀行島田支店 伏見支店長 ・ 新東海製紙株式会社島田工場 田邊工場管理部長 ・ 島田榛北地区労働者福祉協議会 鈴木会長 ・ 島田市校長会 園田初倉中学校長 ・ 島田市 谷河産業観光部長
	事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中村商工課長 ・ 菊池商工課参事 ・ 松浦主事

配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和元年度第4回島田市中小企業・小規模企業振興推進会議席次表 ・ 【資料1】「島田市中小企業・小規模企業実態調査」報告書 ・ 【資料2】令和2年度 島田市中小企業・小規模企業振興推進会議スケジュール案 ・ 【参考資料1】島田市における中小企業支援施策
------	--

○事務局

商業高校については、就職に関する市の施策に大いに協力をいただいております。今年3月に高校生向けの企業説明会を開催する予定ですが、商業高校から100名以上の学生に参加いただくと聞いています。大学進学を希望する学生が増えてはいますが、あくまで個々の判断であり、学生それぞれの気持ちの部分が大きいと考えています。工業高校についても同様に協力をいただいております。工業高校の学生の方が説明会に来る人数は多いという実感があります。

昨今、企業側からの求人も非常に増えており、高卒も大歓迎とのことですが、学校の立場から言うと、単年度のみでなく、継続的な採用が可能になっていくと学校との信頼関係も築きやすいとのことです。いずれにせよ、一つの要因ではなく、様々な要因が組み合わさって今の状況になっているため、部分的な面のみを切り取って話することも難しいだろうと感じています。

一方大学生は、企業と接点を持てる機会をつくっても、中々人数を集めるのに苦慮している状況です。リターン率も年々下がってきており、首都圏の大手企業が積極的に採用を行っていることも要因の一つかと。

○OA委員

松崎町では、高校生向けにリターンで地元に戻ってきてもらうためのセミナーを実施しているとのこと。そのセミナーによってリターン率が増えてきたと聞きましたし、島田市も、学生や親任せではなく、市の方でリターン率を上げるような取組をやってはどうでしょうか。

○北川会長

今まではガイダンスなども大卒を中心にやってきましたが、そういう声は私も聞いております。大学生にいきなり地元企業を紹介しても来ないだろうと。高校生のうちに、地元どんな企業があり、どんな仕事をやっているのかということを知っていかないと、中々地元の中小企業に興味を示してくれない。みらサポでは、中小企業が学校へ出向き、職業論などの話をするといった取組も行われています。商工会議所としても、学生の地元愛を育てる授業、単発の1時間授業で終わらせるのではなく、年間を通しての授業を行ってほしいという要望を県へ提出しています。

島田市は、市と高校、金融機関と商工会議所・商工会の間で提携を結んでいますので、そういう要請をしていくことも可能ではないでしょうか。

- OA 委員 島田市では、20歳を対象に「将来島田市に住みたいですか」といった内容のアンケートをやっていると思いますが、そのアンケートの集計結果も参考になるのではないのでしょうか。
- 事務局 おそらく、社会教育課の事業ではないかと思いますが、情報提供できるものであれば提示させていただきます。
- 北川会長 では、それについては宿題ということをお願いします。
その他の委員のみなさん、ご意見ををお願いします。
- OB 委員 中小企業側も学生を受け入れる体制を整えていなければならぬと感じています。中小企業には人事の役割を担う人材がいないことも多いため、そういった部分のサポートが必要になってくるかもしれません。サポートがないと、中小企業の努力だけではおぎなひになってしまうのではないかと感じています。
- 事務局 高校生へのアプローチについては、市も昨年より時間を費やしながら取り組んでおります。3月に実施する高校生向けの企業説明会についても、藤枝市と連携して動いており、昨年より参加企業・学生ともに増えています。企業側では、すぐに就職に結びつく訳ではなくとも、学生と話をしたり、インターンシップの受け入れをしたり、学校に出向いて学生に教えたりということもやっています。学校側でも、学生のインターンシップを受け入れてくれる企業を探すのに苦心しているという話も聞きますので、両者の意向がうまくマッチングしてくると、両者の距離がより近くなってくるかと思えます。
- OB 委員 先週、当社で障がいのある実習生を8日間受け入れましたが、その際も、学校側は企業を探すのが大変だという話を聞きました。
- 事務局 市も福祉事業所の方と企業をまわっていますが、福祉事業所の方が障がいのある方の仕事のやり方であったり、こういった仕事ならできるかといった整理をしてくれたりします。そういった部分も、うまく連携できれば良いと思っています。
- 北川会長 その他の委員のみなさん、他にご意見は。

- OC 委員
- そのうち大学全入時代がやってくるかもしれないという中で、どう戦略を打つかということになってくるかと思います。市内の学生を島田市で囲い込むか、そうではないのかということもありますし。高校卒業生を対象に、無利息の奨学金を貸与する事業をはじめ金融機関もありまして、貸与の条件は「静岡に戻ってくること」です。これは一例ですが、そういう取組も他の市町村に先駆けてやってみたらどうでしょうか。想像する以上に、奨学金の需要はあると聞いています。そういう制度を活用し、島田に魅力を感じ、Uターンに繋がるといった良いストーリーが描けるかもしれません。
- OD 委員
- 市内中学校では、どこも2年生で生涯学習をやり、地元の中小企業で3日間職業体験を行います。昨今キャリア教育の重要性が指摘される中で、中学生のうちに少しでも企業と触れ合う機会をつくりたいということで実施しています。
- 高校生の大学進学が多くなっている原因は、少子化により子にかけられる教育費が上がっていることも一因だと思います。企業が高卒で就職してほしいと考えても、学生自身や親御さんが大学進学を望めばその意思を変えることは難しい。それよりも、一度地元を離れた学生に、いずれ戻ってきてもらう方が可能性もあると感じます。
- OG 委員
- 長泉町では、町に戻ってきた方へ奨励金を渡す制度があると聞きました。それも参考になるかと思います。
- 報告書の内容については、おびサポを有効活用している事業者が多いことがわかりますので、引き続き事業者のサポートをお願いできればと。
- OF 委員
- 最近の若い世代は、交代勤務を嫌がる傾向にあります。当社の市外工場は事務的な仕事が多く、市内工場は現場での交代勤務が主ですが、市内高校の卒業生が、距離のある市外工場勤務を希望するようになってきています。
- 働き方改革が注目されていますが、今の若い世代は特にそれを重視する傾向にあるように感じます。働き方に対するトレンドが変わってきており、企業側もそれも合わせ改善していかないと、人材確保が非常に難しい状況になってきています。

- E 委員 昨年の高校生向けの企業説明会には私も参加しましたが、高校生も企業も非常に積極的に話をしていたという印象があります。マッチングは、お互いにマッチングしないと成立しないわけですから、どれだけお互いを知れるかということが大切です。今年度から、市では高校生へライン発信を行う取組もはじめています。
- その他、報告書の内容を見るに、おびサポについて全体では高評価をいただいておりますが、個々にはもっと踏み込んだサポートも必要という声も上がっています。実際には、踏み込んだ相談は専門家へ繋ぐという支援も行っておりますので、サポートの周知が足りていないと感じます。市の補助金に対する意見については、外国人や障がいのある方の雇用に対する支援も必要だとわかりますが、補助金というのはどうしても限度がありますので、優先順位をつけてやっていく必要があると思います。
- 北川会長 ありがとうございます。
- 一通り、委員のみなさんにご発言いただきましたが、その他にご意見がありましたらお願いします。
- A 委員 先程事務局から、高校生向けの企業説明会の話を書きましたが、実際には中々企業への就職に繋がっていない、成果としてはあがっていないのでしょうか。
- 事務局 まだはじめて1年の事業ですので、評価できる段階ではないというところ。企業側も、新卒を育てる余裕がないため技術のある方を途中で採用したいという意向があっても、中々そういう方と巡り合う機会がなく、人材確保がうまくいかないという声も聞きます。
- A 委員 まずはじめてみるということが大切ですし、その中でうまくいかないうのならやり方を変えていく必要がありますので、引き続き事業の成果の検証をお願いできればと思います。
- 事務局 承知しました。
- A 委員 以前別の会議に参加した際、若い方が島田にリターンしてこない原因はなぜかということについて、現役の大学生に聞いたことがあります。彼らの話では、子育てをやる環境としては自然も多くて良い

し、働く場所はあればなお良いとの話でしたが、遊ぶ場所がないと。そうすると、どうしても若い方は都会で就職してしまう。それについては、都市計画も含め、市内の環境を整える必要があると思います。

○北川会長

都市計画となるとさらに大きな枠になりますので、そこまで踏み込めるかどうかという疑問はありますが、中小企業が必要とする対策については、この会議で話し合っていきたいですね。

今回、実態調査を終えて、これから今後の進め方の話に移りませけれども、早急に必要とされる施策について、調査で浮き彫りとなった課題を整理をしていければと思います。

それでは、次の議題、翌年度の会議内容について事務局より説明をお願いします。

○事務局

資料2を元に、令和2年度の推進会議について説明した。

○北川会長

今の説明に対し、何かご意見などはありますでしょうか。

10月くらいまでに検討を終えられると、次年度の予算に反映させることができますので、その辺りを視野に入れて会議を進めていければと思います。

他に質問もないようですので、これで意見交換を終了します。委員から発言のあった長泉町の事例などについては、事務局の方で調査をお願いできればと思います。

○事務局

承知しました。

○北川会長

では、これより先は、事務局へ進行をお戻しします。

○事務局

ありがとうございました。

今回の報告書につきましては、これから3月までの間に、今後の施策の方向性について、帝国データバンクさんと事務局で検討を続け、次年度の初回会議の場でお示しできればと思っています。

今回の意見交換では人材確保の話題が中心でしたが、地域の実情によって中小企業が抱えている課題も様々ですので、どう優先順位をつけてやっていくか、それが次回の討論の中心になってくるかと思っています。

話題は変わりますが、委員のみなさまには任期1年ということでやっていただいておりますので、来年度の委員について3月中に依頼を出させていただきます。その際はよろしくお願いします。

以上をもちまして、第4回島田市中小企業・小規模企業振興推進会議を閉会いたします。本日はありがとうございました。